

効率的な勉強方法を目指して



取得した資格：技術士（建設部門：道路）
資格取得年度：令和元年度

すずき ゆうすけ
鈴木 祐介*

受験の動機・経緯

平成14年度に入庁して以来、上水道、河川、道路の事業に携わってきたなかで、公務員技術者として資格を取得することの必要性を感じてきました。

平成27年度に1級土木施工管理技士を取得し、次は技術士と考えてはいましたが、受験になかなか踏み出せませんでした。

そのような中で、平成30年度に当時の所属課長が、課内でなんでもいいので1つ資格試験を受験しようとして有志を募り、勉強会を開いてくれたのがきっかけとなり、受験を決意しました。平成30年度に1次試験を受験し、なんとか合格することができ、この機を逃すまいとそのままの勢いで令和元年度に2次試験を受験するという流れとなりました。

私は、継続的に勉強することがあまり得意ではないので、やる気があるときにいかに効率的に勉強するかを考えながら進めました。参考になるかどうかわかりませんが、私の経験をご紹介しますので、少しでもお役に立てばと思います。

筆記試験に向けての対策

受験にあたっては、まず業務経歴書の作成があります。内容については、過去に合格された方からの資料等を参考に作成し、添削もしていただきました。

業務経歴書については、口頭試験に繋がるものとなりますので、しっかりと仕上げました。

受験申込が済むといよいよ論文試験の対策となります。令和元年度は、試験方法が変更となったタイミングでした。択一式試験がなくなり論文試験となったということで、とりあえず、対応している参考書を購入し、どのような問題が出題されるかイメージを掴もうとしましたが、試験方法変更の直後であり、詳しい解説があまりなかったと記憶しています。

具体的な論文試験対策については、前年度合格者の方に勉強会を実施していただいたため、そこでの課題をこなすことが中心でした。想定問題を解きながら添削していただき、文章の組み立て方や表現方法等を学びました。私には、この実践方式による学習法がとても合っていたと思います。各設問に対して、限られた文字数のなかで文章を組み立てるには、ある程度のテクニックが必要だと思います。実践方式により、効率よくテクニックが身についたと思います。

実践方式によりテクニックは身につきますが、必要な知識がないと文章を作成できません。私は、国土交通白書の内容を中心に、国の施策について把握するようにしていきました。具体的な施策について

*静岡市 都市局 都市計画部 交通政策課 副主幹

は、国土交通省のHPに最新の情報が掲載されていますし、通勤中等の空き時間にスマートフォン等で見られることもできますので、効率よく情報収集ができると思います。また、この情報収集のなかで気づいたことですが、国の施策には同一の内容が複数の施策に関連していることが多くあります。いわゆるキーワードが共通しているものもあるため、各種資料から共通している話題を見つけるように心がけました。

基本的には、実践方式により想定問題をこなすことで文章の構成や各設問のボリューム（文字数）などいわゆる骨組みの部分がある程度統一できるようにします。文章の内容の部分については、国の各施策の共通部分を見つけながら整理し、あるキーワードに対して関連する項目が引き出せるようにすることで、どのような問題にもアレンジできるようにするイメージです。とは言いつつも、国の施策のすべてを網羅することはなかなかできるものではないというのが現状です。私の場合は、学習した内容と出題された問題がたまたま合致した結果だと思っています。

また、前述のとおり試験方法の変更により、筆記試験がすべて論文試験となり、1日で600字詰め9枚を手書きで解答することとなります。私は、文字を書き続ける練習をほとんどしなかったため、最後のほうは手に力が入りませんでした。やはり、一度でもいいので本番同様の文字数を書く練習をすることをお勧めします。

口頭試験は緊張との闘い

なんとか筆記試験を通過することができ、次は口頭試験となりました。口頭試験については、令和元年度の試験制度変更により、試験がどのようなもの

になるか全く不明な状態でしたが、とにかく、過去に合格された方からの資料や参考書を見ながら、一問一答方式でひたすら想定問題を作成する作業をしました。

また、例年試験の冒頭に質問される、業務経歴と業務内容詳細の部分については、3分と5分のパターンを用意していました。

ところが、令和元年度の口頭試験では、技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）についての質問が多くされているとの情報があり、試験直前に慌てて想定問答を再整理しました。私が受験した際も業務経歴等の質問はなく、資質能力についての質問が中心でした。

実際の試験対策では、過去に合格された方に模擬試験をしていただき、試験本番に挑むための心構えとアドバイスを学んだ上で、試験に挑みました。しかしながら、本番は想定以上に緊張し、もし模擬試験をしていなかったら、うまく話せなかったと思います。

受験を終えて

このようなかたちで、無事に合格することができました。抽象的な表現になってしまいますが、私の場合は、作成した論文を暗記するのではなく、様々な媒体から得た情報を整理し、文章作成のための引き出しを多く作っておくことを心掛けました。

また、受験にあたっては、過去に合格された方々の資料や勉強会、模擬試験等の様々な手助けをいただきました。自分一人では到底勉強もできなかったと思います。今後は、これから受験される方々へのサポートなどを行いながら、できる限りのことを行うことで恩返しをしていけたらと思います。

【著者紹介】 鈴木 祐介（すずき ゆうすけ）

平成14年度静岡市入庁（土木職）。上水道、河川、道路整備等の職務に従事。平成24年度から令和元年度（技術士受験時）まで街路課および葵南道路整備課で道路整備を担当。現在は、交通政策課でバス交通政策を担当。